

坂戸市市制施行50周年特集

坂戸市 独自プロジェクト充実



①市内の小学校12校、中学校7校すべてで自校調理 ②給食には坂戸産・県産の安全な食材を積極的に使用 ③貸与されたヘルメットをかぶり下校する自転車通学の中学生 ④授業で「紙」の国語辞典を使う生徒。記憶の定着にも期待

坂戸市は子育て世代、小・中学校の児童・生徒を応援する制度や施設が充実している。その一部を紹介しよう。

自校調理、給食費無償

市内にあるすべての小・中学校で「自校調理方式」を採用しており、2023年から給食費の無償化を実現している。それぞれの学校に給食室が存在し、手作りで出来立ての給食を食べることができる。

地元坂戸産や県産の旬な野菜など、安心・安全な食材を使用し、煮干しや削り節、鶏ガラなど天然の出汁にこだわったカレーウやコロッケ、ゼリーなども手づくりするという。各学校

市教育委員会では、中学生を対象に登校や部活動時のほか日常生活で自転車に乗る際に、ヘルメットを着用してほしいと、2014年に市内中学校の自転車通学の生徒を皮切りに、16年に市内全中学校、22年に市内在住の全中学生にまで拡大して、ヘルメットの無償貸与を行ってきた。

23年の改正道路交通法施行で着用が努力義務化されると、翌年24年には市内在住のすべての小学校の児童にも範囲を拡げている。

サイズは小学1年から5年生はMサイズ、小学6年生から中学3年生まではLサイズを貸与している。

また、交通対策課では全世代を対象に、市内のヘルメット販売協力店で買うと、店頭価格から千円を引いた金額で購入できる補助も用意している。

国語辞典を無償配布

国語辞典の無償配布は2025年度から、中学生対象の市のアンケート調査で国語辞典の所持率が小学生時より低かったことから、市立中学校の生徒全員に「紙」の国語辞典を配布した。市教育委員会は「紙の辞典で調べたほうが、記憶に残りやすい」と調査結果もある。紙の辞典だと調べた時に他の言葉も俯瞰できるので、より記憶に残り、言葉に興味を持つ」と教育効果に期待を寄せた。

このほか、市立中学校の生徒に年1回「英検」の受験料全額負担や小・中学校で使ったドリル・ワークブックなど、教材費の一部にも支援を行い、保護者の経済的負担を少しでも軽減し、勉学に取り組める環境を整えている。

食と健康のプランニングセミナー	
第1回	日本栄養大・香川副学長の講演
第2回	血液・遺伝子・尿検査、食事調査
第3回	検査結果返却、栄養士からの個別アドバイス
第4回	食事教室
第5回	運動教室
第6回	血液検査、尿検査、食事調査
第7回	検査結果返却、食事アドバイス

肥満、高血圧、尿酸の代謝に関係する遺伝子調査や食事調査結果に応じた個人別の栄養アドバイスを受けられる

講義 日本栄養大 香川副学長

セミナーで講演する日本栄養大・香川靖雄副学長=7月11日、坂戸市文化施設オオル



レトルトカレーのパッケージ

元玉川大学教授の干場英弘先生(79)が坂戸に転居されたのをきっかけに本格的な指導を受けるようになった。先生の存在がなかったらどうなっていたか。

現在は、食育を兼ねて市内小中学校の給食でハチミツを使ったメニューも開発。第一弾はゼリーでした。ことし6月に環境学館いずみのイベントでも直売(250円入り、税込1千円)したんですが大盛況で完売しました。

ミツバチの飼育には巣箱の設置場所のほかにも蜜源となる植物が欠かせません。ミツバチは花粉に関わり、ひいては健全で豊かな自然環境の一端を担う存在です。ボランティアの皆さんがノウハウを取得して「ゼミプロ」のような形で養蜂を続けてくれたら、市としてこれほどうれしいことはありません。

日本栄養大と連携 「葉酸」で健康に

「さかど葉酸プロジェクト」20周年

現在は、ハウス食品グループの「ハウスウェルネスフーズ」とも葉酸の普及啓発の面で連携している。プロジェクトの軸は、7回にわたる「食と健康のプランニングセミナー」。市内在住18歳以上の市民45人を募集し、葉酸の必要性を伝え、葉酸を含む野菜の積極的な摂取を呼びかける。

全7回のセミナー開催

成人が1日に摂取する推奨量は、240μg(厚労省の日本人の食事摂取基準)とされるが、日本人の15%は遺伝子の関係から体内で葉酸を活用する能力が低く、高齢者は天然の葉酸を活用できる能力が低下する。このことから全7回開催されるセミナーでは、講義をはじめ、血液検査・遺伝子検査、食事調査を行い、体質や葉酸摂取量に合わせた個人ごとの食事のアドバイスを行う。

翌年には全5回のフォローアップセミナーも用意されており、結果を日本栄養大にもフィードバックする。事業を担う市の市民健康センターの担当者は「自身の健康づくりや生活習慣の振り返りの機会としてほしい」と話した。

オリジナルの健康カレー

市では健康なまちづくり事業の一環として葉酸を多く含むメニューや商品を提供する店舗を「食を通じて健康づくり応援店」に認定するほか、プロジェクト20周年を記念し、葉酸を150μg摂取できる「さかど葉酸ほうれん草カレー」も開発。県産のホウレンソウを使用し、辛すぎずコクがあるのも子どもも食べやすいレトルトカレーだ。市内の協力店舗で販売するほか、ふるさと納税の返礼品を視野に知名度アップ、販路拡大を目指す。

石川清市長は「市民のみなさんがこのカレーを食べることで健康に暮らすことができるまちづくりの一助になれば」と意欲を見せた。

市民ボランティア「養蜂」の輪

果箱を確認する干場さん(右)とボランティア=8月15日、坂戸市にっさい花みず木の西清掃センター

プロジェクトを先導する「環境学館いずみ」の宮寺さん(右)と干場さん

「ミツバチが元気に飛び交うまちに」

「ミツバチプロジェクト」責任者 宮寺祥仁さん(71)に聞く

きっかけは「ミツバチを飼育してみないか？」のひと言。養蜂が趣味の石川清市長が突然、発案してきたんです。幹部は全員、目撃するのは全国でも例がない。振り返ると、周囲の冷線をそろしめたね(笑)。

当時(2012年)、環境部員だった私に白羽の矢が立ったという訳です。とはいっても、養蜂を政策に掲げるのは全国でも例がない。振り返ると、周囲の冷線をそろしめたね(笑)。

元玉川大学教授の干場英弘先生(79)が坂戸に転居されたのをきっかけに本格的な指導を受けるようになった。先生の存在がなかったらどうなっていたか。

現在は、食育を兼ねて市内小中学校の給食でハチミツを使ったメニューも開発。第一弾はゼリーでした。ことし6月に環境学館いずみのイベントでも直売(250円入り、税込1千円)したんですが大盛況で完売しました。

ミツバチの飼育には巣箱の設置場所のほかにも蜜源となる植物が欠かせません。ミツバチは花粉に関わり、ひいては健全で豊かな自然環境の一端を担う存在です。ボランティアの皆さんがノウハウを取得して「ゼミプロ」のような形で養蜂を続けてくれたら、市としてこれほどうれしいことはありません。

坂戸市は子育て世代、小・中学校の児童・生徒を応援する制度や施設が充実している。その一部を紹介しよう。

自校調理、給食費無償

市内にあるすべての小・中学校で「自校調理方式」を採用しており、2023年から給食費の無償化を実現している。それぞれの学校に給食室が存在し、手作りで出来立ての給食を食べることができる。

地元坂戸産や県産の旬な野菜など、安心・安全な食材を使用し、煮干しや削り節、鶏ガラなど天然の出汁にこだわったカレーウやコロッケ、ゼリーなども手づくりするという。各学校

生を対象に登校や部活動時のほか日常生活で自転車に乗る際に、ヘルメットを着用してほしいと、2014年に市内中学校の自転車通学の生徒を皮切りに、16年に市内全中学校、22年に市内在住の全中学生にまで拡大して、ヘルメットの無償貸与を行ってきた。

23年の改正道路交通法施行で着用が努力義務化されると、翌年24年には市内在住のすべての小学校の児童にも範囲を拡げている。

サイズは小学1年から5年生はMサイズ、小学6年生から中学3年生まではLサイズを貸与している。

また、交通対策課では全世代を対象に、市内のヘルメット販売協力店で買うと、店頭価格から千円を引いた金額で購入できる補助も用意している。

坂戸市は、昭和51年に市制を施行してから、本年9月1日に50周年を迎えます。

今日の発展があるのは、まちづくりに力を尽くしてこられた先人の皆様のご尽力の賜物であり、心から敬意と感謝を申し上げます。

この半世紀の歩みを礎として、市民の皆様や関係者の皆様とともに、「住みつけたいまち 子育てしたいまち さかど」の実現を目指し、次の50年、その先の100年へと続く、持続可能で魅力あふれるまちづくりを進めてまいります。

今後とも、本市の更なる発展のため、誠心誠意、市政運営に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

豊かな自然 便利な交通環境

坂戸市は関東平野の西、県のほぼ中央に位置し、関東有数の清流として名高い高麗川が南西から東へと流れる。高麗川は坂戸市の北側で越辺川と合流し、市の北部を流れて東に流れていく。自然豊かな土地を活かして昔から農業が盛んだ。

江戸時代には八王子と日光を結ぶ街道の宿場町・坂戸宿として栄え、1970年代からは鉄道が都心に直結していることから、利便性に優れたベッドタウンとして開発されてきた。現在人口は99,025人(2026年7月1日)。道路では、関越道・坂戸西スマートIC、圏央道・坂戸IC、鉄道は東武鉄道の坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅、西家駅の4駅がある。



沿線には、城西大学、日本栄養大学(旧女子栄養大学)、明海大学、東京国際大学等のキャンパス、グラウンドをはじめ高等教育機関が多く集まる学園都市としても知られる。

県内外から約4万人もの観光客を集めるのは毎年10月に開催される県内有数のお祭り「坂戸よさこい」。3月には約200本、約1.2kmにわたる安行寒桜が北浅羽桜堤公園で咲き誇る。

現在、圏央道坂戸インターチェンジ周辺では工業・流通系施設の立地に向けて民間事業者による工事が進められており、地域の経済的基盤が強化され、さらなる発展が期待される。ことし9月1日に市制施行50周年を迎える坂戸市を特集する。

市制施行50周年を迎えて

坂戸市長 石川 清

坂戸市は、昭和51年に市制を施行してから、本年9月1日に50周年を迎えます。

今日の発展があるのは、まちづくりに力を尽くしてこられた先人の皆様のご尽力の賜物であり、心から敬意と感謝を申し上げます。

この半世紀の歩みを礎として、市民の皆様や関係者の皆様とともに、「住みつけたいまち 子育てしたいまち さかど」の実現を目指し、次の50年、その先の100年へと続く、持続可能で魅力あふれるまちづくりを進めてまいります。

今後とも、本市の更なる発展のため、誠心誠意、市政運営に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

坂戸市市制施行50周年おめでとうございます。

ウエルシアは、これまでこれからも、
坂戸市の皆さまの「健康ステーション」であり続けます。

ウエルシア
坂戸若葉駅東口店 1511号



welcia ウエルシアホールディングス株式会社

<https://www.welcia.co.jp>

未病、予防、治療、介護のプロフェッショナルとして
お客さま、患者さまの人生に寄り添い、
信頼される商品やサービスを提供しています。

ケアタクシー・民間救急のサービスを提供しています。

年中無休：8:00～18:00

時間外・日曜・祝日の対応もご相談ください(24時間電話対応)

050-1707-4014

<https://welcia-caretransport.com>

welcia ウエルシアケアトランスポート株式会社